

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100243
法人名	社会福祉法人 真奉会
事業所名	グループホーム あもり
所在地	鹿児島県霧島市隼人町内2075番地2 (電話) 0995-43-8700
自己評価作成日	平成28年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあもりはこれまで、主治医の先生の協力もあって、長年、ホームでの看取りを行ってまいりました。看取りに際しては、主治医よりご家族へ説明をしていただき、その後、ご家族のご意向を伺いながら、希望があればホームでの看取りを行っております。ホームでは、胃ろうや中心静脈栄養等の医療行為を必要とする方は看取ることが難しいので、少しずつ口腔より摂取していただき、ご家族も看取り期間中はなるべく宿泊をしていただくようにし、最後はご家族様中心に看取っていただくこととしております。今後、看取りについては、例えばご本人の希望等を叶えられないか、お亡くなりになってからの偲び方等、生活施設としてもっと何かできないか、と考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は2ユニットのホームであり、隣地に同法人の障害者施設があり、障害者施設の園芸ハウスに出かけたり交流の機会もある。
- ・地域の清掃活動に参加したり、ホームでの地域交流会を開催する等、住民との交流を積極的に行っている。今後は、公民館でのサロン活動等、地域への貢献についても検討していく予定である。
- ・協力医療機関とは、24時間医療連携体制が整っており、かかりつけ医も近隣にあり、家族の安心につながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を各棟、職員の目につくところに掲げている。ここ数年、改訂は行っていない。	理念は玄関やホールに掲示しパンフレットにも掲載している。職員は個々に理念を確認し支援を行っている。見直しの要望もあることから、理念を全員で話し合い共有化を図っていくよう計画中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域との付き合いが浅くなってきている。11月には地域交流会を開催、その後も小規模な形で、地元を中心に地域交流を図っていきたいと考えている。	地域の清掃活動への参加や地域交流会の開催、ボランティアの受け入れ等により、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	実践できていない。※平成27年には、当時の主治医と地域の方を交えて認知症についての勉強会を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎奇数月に開催。形骸化しつつあり、もっといろいろな形をできたらよいと常々思っているが、なかなか実現できていない。	会議は2ヶ月に1回開催している。ホームの活動報告や利用者の状況報告・他県でのグループホームの事故や福祉施設での事件情報の交換をして対策を練っている。今後家族にも積極的に参加を依頼したり、ホーム便りの作成を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>積極的連携といえるかはわからないが、運営推進会議にはほぼ毎回参加していただいている。</p>	<p>市の担当者とは、更新時や必要時に電話や窓口に訪問し、現状報告をしたり情報をもらって連携を図っている。市主催の研修会参加時に情報交換に努め、協力関係を築くように取り組んでいる。ホームの運営推進会議に参加してもらい実情を話し合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日勤帯は玄関、デッキに続く掃き出し窓は原則的に施錠しないこととしており、職員は順守している。身体拘束に関しては年1回以上の内部研修及び、疑義が生じたケースについては随時身体拘束委員会を開催している。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて年に2～3回内部研修を行っている。言葉などで不適切な場合はすぐに注意し、判断に迷う事例についてはその都度検討会を実施している。日中は玄関や掃き出し窓の施錠はせずに、職員の見回りや付き添い等の対応で拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については、年1回以上、内部研修を行って職員への周知を図っている。また、疑義が生じた場合は職員に事情を尋ね、指導またはケアを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度についての研修は行っていないことが多い。今後、内部研修などを通じて行ってきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	一緒に契約書などを閲覧しながら説明し、同意を得たうえで契約していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を設置しているが、有用に活用されているとは言い難い。クレームが生じた際には、ミーティング等で内容について話し合い、今後の改善方法について検討している。	利用者からは日常のケア時や介護相談員との面談時に要望等を聞いている。家族からは、家族会や運営推進会議で意見等を聞く機会を設けており、面会時にも職員から近況報告を行うと共に要望も聞き改善に努めている。電話でも聞いている。意見はミーティングで話し合い、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のミーティング等を通して機会を設けているつもりではあるが、実際、言い難い雰囲気であるとの意見がある。もっと砕けた雰囲気の場の必要性の提案もある。</p>	<p>月1回、全体及びユニットのミーティングを実施している。個別相談は管理者や主任が対応している。個人的に管理者に相談に来る場合もある。出された意見は検討し運営に反映している。今後、何でも言える場も作りたいとの職員の意見で、検討中である。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人全体で職員処遇改善のための話し合いを定期的に行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課等を法人全体で行っているが、システムとして有効に活用されていない面もある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>霧島市のケアライフサポートワーカーを取得した職員は、他の事業所職員と交流を図ることができている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全体で接し、ご本人の状態を把握していく中で会話をやっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期にはご家族とのコミュニケーションを行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居施設なので、まずは「預かってほしい」というニーズが高い。その中で、身体機能を見極め、福祉用具の使用などは検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	I棟には、洗濯物をたたんでくださる利用者がお二人あり、よくお願いしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前はご家族の方で食事介助などを毎日する方もいらっしゃったが、現在は積極的なご家族がおらず、かかわりが薄くなってきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出や訪問が少なくなってきているため、関係性の途絶が懸念される。</p>	<p>家族や知人の面会がある。利用者が以前の趣味や習慣を継続できるように配慮して、プランター園芸をしたり、馴染みの美容師が2ヶ月に1回訪問をしている。本人の希望を聞いて外出の支援もしている。家族の協力を得ての墓参り・外食・外泊等で交流が途切れないよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士のかかわりがあまり見られていない。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>死亡以外でサービス終了となったケースはあるが、それ以降のかかわりは希薄となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務中心になりがちではあるが、本人の思いをなるべく大切にしようという姿勢もある。	利用者との会話の中からや生活歴から、趣味や得意分野を把握するように努めている。意思表示が困難な場合やことば等の意味が不明確な場合は、家族等からの情報を参考にして職員間で話し合い本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様等のご来訪時に尋ねる等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介助の中で気づいた点についてはその都度、また、各棟のケア会議の中で検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライフサポートプランを導入し、チームケアを行おうとしている。なかなかうまくいっていないが…	本人の意向及び家族に要望を聞き、職員の意見も参考にして介護計画を作成している。毎月、介護記録をもとに話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月又は1年で見直しをしている。状況変化時にはその都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個別記録を行っており、実践している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	ドライブに出る等行っているが、個別ケアに基づいた支援とは言い難い。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	あまり行えていない。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	当方では協力病院がすべての利用者の医療に対応しているが、利用希望時に、協力病院であって同法人等の関係性はなく、かかりつけ医を継続してもよい旨説明は行っている。	本人・家族の希望により、協力医がかかりつけ医となっている。月1回訪問診療があり、24時間医療連携体制が整っている。受診は家族または職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>その都度、職員の判断により看護師へ相談するよう指導しており、そのように行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報提供を行っており、入院後も時々面会や情報交換を行うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化・看取りに関する指針があり、説明・同意を得ている。</p>	<p>契約時に指針に基づいて説明し同意書をもらっている。重度化等の場合、主治医からの説明後、事業所でできることを説明した上で、家族の意向を段階的に聞き、主治医を交えて話し合い支援に取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練を積んでいない。今後、改善していきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>霧島市より、防災対策を提出するよう指導があり、作成中である。運営推進会議に、地域の自治会長に参加していただき、協力体制を築いていきたい。</p>	<p>消防署の指導のもと避難訓練を年1回、自主訓練を年1回、昼間想定で実施している。今後地域住民にも声かけし協力をもらう計画である。非常時の水や食料等の備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の人格尊重のための勉強会などを通じて、声掛けなどには注意を促しているが、時折、話し言葉等が見られている。	研修を実施し、入室時のノック・排泄介助時の声かけ・羞恥心への配慮等について職員の理解を深めている。不適切な言葉かけや対応について注意し改善に取り組んでいる。声かけは互いに目を見て話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要な場面では、○○しませんか？どうしますか？等、ご本人の意思を問うような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れに沿ったケアを行うことが重要視され、ご本人のペースや希望等を十分に聞き出せていないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の選択等の支援はほとんど行えていない。（以前、こだわりのある利用者に対しては支援が行っていた）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や調理、配膳を一緒にすることはできていない。	調理専任職員を配置し、利用者の嗜好を把握し提供している。利用者は職員の同席で食事介助や見守りを受け食事を摂っている。利用者の力量に応じ下膳やお盆ふき等をしている。行事食の花見弁当やそうめん流し・クリスマス会・おせちやおやつづくりに楽しんでいる。外食等の楽しみも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は声掛けを行いなるべくとってもらえるようにしている。食事はペースを乱さない様気を付けながら、声掛けや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを朝、夕食後を重点的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	布パンツで対応可能な方はなるべく紙パンツを使用しないようにしている。	排泄チェック表にて、個々に合わせて声かけしトイレ誘導をしている。リハビリパンツと尿取りパットの利用者がほとんどであり、日中は声かけ・誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間は個々の状況でパットの交換介助やトイレ誘導している。排泄の自立を心がけ、リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は別途記録を行っており、また、便秘状態にあるときの状態の変化についても話し合いを行っている。水分摂取や、牛乳の摂取等に取り組む。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個別の希望におうじた入浴支援は行えていない。	入浴は基本的に週3回午前中で、本人が希望すれば毎日でも入浴可能である。1棟に機械浴があり、2棟にはシャワーキャリーもある。入浴剤も使いゆっくりと楽しんでいる。必要に応じて、2人介助や同性介助で支援している。温泉に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じた就寝・起床の設定とはなっていないが、身体や精神的な状態に応じて、午睡等を個別に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	鎮痛剤や安定剤などについては情報交換を行っている。もう少し深めたい部分である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	個別に対応している例もあるが、全員に対してはなかなか行えていない。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	人員不足を理由に、個別に出かける等の対応は取りにくい状況であるが、例えばお墓参りや近隣のイベント等の情報は得るようにしている。	日常的には敷地内の散歩やウッドデッキ・玄関のベンチでの外気浴等をしている。そうめん流しに行ったり、その日の状況でドライブや買い物に行くこともある。地域のイベントの情報も得るようにしている。家族の協力での墓参りや正月の外出・外泊等もあり、できるだけ出かけられるように支援している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	原則としてお金の所持はしないこととしている。少量のお金を持つことで安心感を持っていただけのような場合には所持金を把握したうえで持っていたいでいる。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	十分に行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは清潔に努め、食堂には季節に応じた掲示物などを行っている。空調を活用し、過ごしやすように配慮している。	ホールは天井が高く広く、窓から自然豊かな眺めがすばらしい。食堂とソファコーナーが続きゆったりと明るい空間となっている。加湿器・エアコンがあり適切な室内環境である。壁には季節の飾り付けがされ、行事の写真や作品を飾り、畳スペースやウッドデッキ等、利用者の好みの場所でくつろげる様に工夫され、居心地のよい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせるような場所は特に設けていないが、必要があれば和室などを利用してもらうことは可能である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレへの動線や、ベッドの配置など、ご家族と協議しながら行っている。	居室はエアコンと吊戸棚が設置されている。本人が暮らしやすいようにベッドやタンス等、利用者の物を持ち込み、写真や作品を壁のボードに貼るなど、落ち着いて過ごせるようにしている。畳を敷いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方は、できるだけご自分で歩いていただき、転倒が無いように見守りを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない